



寄居中学校の学習状況について

～令和4年度全国学力・学習状況調査より～

令和4年4月23日に中学3年生を対象に実施された『全国学力・学習状況調査』の結果をもとに、寄居中学校の学習状況について、分析を行いました。その結果をお知らせいたします。

1 全国学力・学習状況調査(国語・数学・理科)の結果より

当校の学力実態(平均正答率)

	寄居中学校	新潟市平均	新潟県平均	全国平均
国語	76	68.0	68	69.0
数学	67	51.6	50	51.4
理科	62	49.4	49	49.3



2 分析 顕著なものを、成果は○、課題は●で示しています。

①国語

○ほとんどの設問の正答率が、県・全国に比べて上回っています。特に、「表現(話す・聞く)」に関する設問については、授業だけでなく、生徒会活動や委員会活動、学級活動などでの積極的な意見交換が、成果として表れています。

○「心情理解」の設問では、昨年からの読書を奨励している成果が表れています。今後も、多読を奨励し、読書記録を継続的に行っていきます。

●「情報を整理し、根拠を明確にする」設問のみ、県・全国より下回っています。普通の文章の読解ではなく、文章やウェブページ上にある情報を総合して読み取っていく力が低くなっています。

⇒<手だて>ただ単に、読書を推奨するのではなく、グラフと文章を併せて読み取ったり、地図と文章を併せて読み取ったりする読解力を高めるような授業展開を取り入れていく。

②数学

○すべての設問の正答率が、県・全国に比べて上回っています。

○一次関数(関数領域)、素因数分解(数と式)で、特に正答率が高く、数学的な表現や処理をすることができています。

○データやグラフを読み取り、問題解決に利用することができています。

●四角形と三角形(図形領域)で、「ある事象がいつでも成り立つ理由を説明する」問いの正答率が、県や全国に比べて大きく上回っていますが、25%の生徒が無解答でした。

⇒<手だて>図形分野について、思考力、判断力、表現力を高めるための数学的活動を積極的に取り入れていく。

③理科

○分類・区分別集計結果のすべての区分で、市、県、および全国の平均正答率を大きく(13%程)上回っています。

○観察・実験におけるデータの読み取りや実験器具の使い方が身についています。

○実験結果から、科学的根拠を的確に導き出すことができます。

●生物の共通性と多様性の見方を比較、分析して解釈することをやや不得意としています。

⇒<手だて>自然事象に関わる分野では、確認プリントを活用し復習を行う。また、観察や実験でも、比較し分析していく場面を増やしていく。